

ユーゴのイエレナさんが綴る「中大の1年」

私はシミヤノヴィッチ・イエレナと申します。23歳です。ユーゴスラビアのベオグラード大学文学部の日本語学科出身で、去年の4月から今年3月まで、中央大学文学部史学科（日本史専攻）に交換留学生として1年間、在学しました。いままで『Hakumon ちゅうおう』で、中大生が留学先で書いた文は読んだことはありましたが、広報部の方から「逆に外国人留学生のまとまった文が出たことがないので、ぜひ書いてほしい」といわれました。帰国の支度で忙しかったのですが、自分の滞在記録にもなると思って「この1年間に考えたこと、行動したこと」を書きました。「量はあるけど中身がない」かもしれませんが、私の日本印象記のつもりです。どうぞ読んでください。

日本人学生は日本語力不足

日本の入学試験は難しいとよくいわれますが、ユーゴスラビアも同じです。また、私たちも全然重要ではないことを時々勉強させられています。でも、日本の場合は勉強する方法が問題ではないかと思います。つまり、日本は資料を記憶することは必要だと思われているようですが、自分で論理的に結論づけるのは支持されないと思います。すべてが計画通りにいくはずがないので、問題が急に変わる場合、日本人は困ることが多いのではないのでしょうか。日本人は創造力が不足だと思います。

ぎこちない態度を改めて

「外国人は早く日本の習慣に慣れなければならぬ」という人が多いようですが、逆に日本人が外国人に対するぎこちない態度を早く変えなければいけないでしょう。学生たちがわからないと留学生にもその緊張が伝わってきます。絶えず新しい環境で刺激を受けているわけですから、日本語力にもっと自信を持つことが大切だと思います。日本にいる留学生にとっては、これが案外、大きな問題だと思います。

日本の学生はなかなか友だちになれませ

んでした。また、留学生と友だちになりたがっている日本人は、英語の相手を欲しがっているだけの理由で、親切にしてくれるだけの人が多いようです。私の場合、教室での友だちは半年後にやっとできました。いまは留学生活も楽しくなりましたが、その前は寂しくて悩んでいました。中央大学のような環境で、いろいろなサークル生活を楽しめる学生をいつもうらやましく思っていました。

いま振り返ってみると、中央大学に1年間勉強したことはとても役に立ったと思います。留学経験のある方は分かると思いますが、留学というのはとても楽しいことですが、苦勞がいろいろあることも1つの部分だということです。

初めて日本へ来たときは日本語をあまり話せなかったけど、「以前にも日本へ来たことがある」という安心から、それほどカルチャーショックを感じないのではないかと考えていました。

しかし、それは思ったより強かったです。たくさん面白いこともありましたが、私はどうしてもわからないことが2つありました。

店先での奇妙なやりとり

まず、ユーゴではお店に入ると、店員もお客さんも「こんにちは」と同じ挨拶を交わす習慣があります。子供の頃に学んだことは、いつまでも頭に残っていて自分の生活に強い影響があるものです。私は日本の「Family Mart」に入った時、店員が「いらっしゃいませ」というので、お客の私は思わず「いらっしゃいませ」と答えてしまいました。すると店員の彼は、びっくりした顔をして、次にニコニコ顔になりました。きっと私を「ヘンな外人だな」と思ったのでしょう。

2つ目は、新宿のキノクニヤに電子辞書を買いにいった時、私は「電池自転車がありますか」と聞いてしまいました。当惑した店員は、私の質問を何度も大きな声で繰り返しました。自分のミスを気づかずに、私は「ハイ、そうです」と答えました。するとお店の人たちから、

いっせいに大声で笑われました。そのうち、私もその意味がわかって皆と一緒に笑っていました。

楽しいこともたくさんありました。とくに私は旅行するのが大好きで、北は札幌から始まった新潟、長野、山梨、名古屋、関西と行きました。

札幌の雪祭は夢を見るほど良かったし、人々はとても親切で聞き取りやすい日本語を話してくれました。新潟県の雪景色も期待以上に素晴らしかったです。子供のころからそんな白さを見たこともなく幸せな思い出ができ、とても嬉しかったです。長野の空気と自然はとてもきれいで、のんびりするには最高のところだと思います。名古屋

屋はごちゃごちゃしているけど、東京のように緊張感が感じられなかったので、日本の都市の中では一番気に入りました。

気に入った「～しとん」

関西には5年前にも行ったことがありますが、何度行っても特別なところだなあという気がします。大阪にお花見に行きましたが、その素晴らしさは言葉に言い表せないほど興奮しました。多数の満開の桜がまるで大阪を天国のようにしていました。神戸は建築面で一番きれいな都市だと思います。食べ物もとてもおいしくて話は面白い。「～しとん」という言葉は意味が



左から2番目がイエレナさん

分かりませんでした。後で「～していますか」ということだとわかって、「これは面白い」と大いに気に入りました。

京都と奈良は世界で一番きれいな都市です。友だちから「あそこへ行くたびに、イエレナはいつも顔をピカピカさせて“ここは仰天する町だね”っていうね」といわれました。どこもみんな大好きです。

* * *

この1年間を大切な思い出に、ユーゴスラビアに戻って、大学院へ進むための勉強をします。中央大学の発展と皆さんの幸運をお祈りします。（2001年1月記）

おことわり 『Hakumon ちゅうおう』01年6月号から転載しました。